日本語が日本人を創る

さて、「言葉が人間を創る」ということが言える以上に、「日本語が日本人を創るのだ」と、こういうことが言えると思います。事実、私どもは、たとえば牛を見かけますと、「あ、あそこに牛がいる」と思い、またそう言います。つまり、日本語の“牛”という言葉で牛を見るわけです。ところが、“牛”という言葉は、英語では cow とか bull とか ox とかというような言葉がこれに当たるわけですけれども、cow というのは牝の牛のことであり、bull というのは牡の牛でありますし、ox はその去勢されたものであります。しかも ox というのは、一頭である場合は an ox と言いますが、二頭以上になりますと oxen となります。それで、「あ、あそこに牛がいるよ」と言う場合、私どもは牝牡に関係なく、また数にも関係なく、「あ、牛がいるよ」と自分でもそう思い、人にもそう言いますが、言葉の違う欧米人は、その見方や考え方が当然違って来るわけです。つまり、性や数に関係のない牛というものを考えることは、そういう言葉を持たない欧米人には出来ないわけであります。

このようなわけで、「まさに日本人というものは日本語によって創られたものである」ということが出来ると思うわけであります。最近、東京医科歯科大学の角田先生が『日本人の脳』という本を書かれまして、日本人の脳の構造には欧米人と違う部分があるということをおっしゃっています。しかもそれは、日本語というものによってそうなって行くものらしい、ということをおっしゃっていますが、その意味からするならば、疑いもなくこれは科学的に言って、「日本語が日本人を創っている」と、こう断定出来るのではないでしょうか。

私は、日本人が本当に優秀であるとするならば、それは日本語の優秀性に因るものである。つまり、日本人が頭が良いとすれば、それは日本語がすばらしいためなのだ、そう言ってよろしいかと思います。